

Another story～専門家派遣事例「父と娘の心温まる決断」～



※こちらのストーリーは実話を元にしていますが、お名前や地域等は変えています。

年明けの挨拶も一通り終え、年度末の忙しさを感じ始める1月下旬に1人の女性が

市役所の「空き家相談窓口」を訪れた。「京都市には空き家に専門家を派遣する制度が

あると聞いたのですが。まだ空き家ではないですが、相談に乗って頂けますか？」

担当者は「もちろんです。概ね1年以内に空き家になるご予定でしたら、専門家派遣

制度のご利用も出来ますよ」と言った。

「実は高齢の父が先日、入院をしました。母の認知機能が低下していることもあります

心配なので、ずっと同居しようと提案していたのですが…ようやく、退院後は新潟で

一緒に暮らすと言ってくれたんです。」

窓口に訪れた清水さんは、前々から同居する準備をしていたが、はじめて心優しい父親

は「迷惑をかけるから」「50年も住んでいる思い入れのある家を離れるのは寂しい」

と娘の申出に首を縦に振らなかつたが、入院をきっかけに、自分にもしものことがあつ

た際に残される妻のことも考えて、転居することを決心したという。

そんな父親の心残りは、「空き家になってしまう自宅」だと話が続く。

お父様は「一人娘に金銭的な負担や相続の手間を掛けさせたくない。何より、自分の家

の行く先を自分で決着つけることが、この家への礼儀だ」と言って京都を離れる前の

「家じまい」を望まれているとのこと。



「退院次第、新潟へ連れて行きます。」と娘さんの決意も固いので、急ではあったが

その場で専門家派遣の申込書を記入して頂き、退院の日に合わせて現地相談をした。

現地相談当日、派遣された空き家相談員は家の状況を冷静に分析した。

『丁寧に暮らされている。築年数相応の経年劣化はあるが、雨漏りやシロアリの被害は

無いようだ。警察官だったという所有者の実直な人柄を表すかのように家財も整然とし

ている。だが、やはり長く住まわれていること也有って荷物が多い。』

一通り建物内外を見た後、温かい口調で所有者である山口氏と娘さんに3つの助言を始めた。

1. 売却可能価格の提案

近隣事例と築年数などの諸条件から見込める売却価格について

2. 不動産事業者買取の勧め

衣類などの身の回りの品だけを持って転居するため、家財のほとんどは買主に

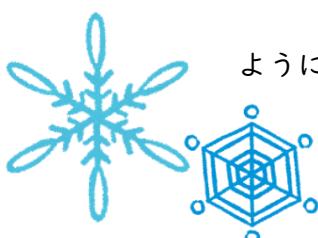
処分して欲しいという要望からも「業者買取」を提案。信頼のおける買取業者

数社に絞って打診。これにより、内覧や交渉の手間を大幅に削減し、短期間で

の現金化が可能。

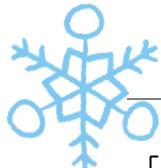
3. 法的な書類の準備について

印鑑証明等の必要書類を迅速に揃え、買主が決定次第、すぐに手続きに移行できる



ようにすること及び娘さんを代理人としての契約も可能なことをアドバイス。

Another story～専門家派遣事例「父と娘の心温まる決断」～



「この立地と築年数では、時間をかけて一般の方に高く売るのはお父様のご意向からも

外れますし、現実的でもありません。宅地面積から考えると一戸での建替えも難しい

ので、不動産業者に買い取ってもらうのが良いと思います。」

山口氏は相談員の的確なアドバイスに納得し、買取業者と速やかに交渉、契約が成立

した。買取価格は、想定通り高くはなかったが、住宅ローンはとうの昔に返済を終えて

いる。人生の区切りとして納得のいく金額だった。

無事に手続きを終え、最愛の娘の下で穏やかに暮らす山口さんのアンケートには、

こう記載されていた。

「制度を利用しなければ、よく分からぬまま不動産業者に依頼し、娘が実家の片付け

や親の引っ越し準備や手続き等に忙しい時に、さらに手を煩わせることになったと思う。

制度を利用したことでの満足のいく家じまいが出来た。相談員さんに感謝。」

